

、盛ニ游泳ス、此精蟲ニ關シテハ理學博士柴田桂太氏及ヒ理學士藤井健次郎氏ノ面白キ研究アリ諸氏若此精蟲ヲ見ント欲スレバ、小孢子囊ノ成熟セルモノヲ採リテ、水ヲ盛リタル「ペートル、シャール」内ニ小孢子ヲ注キテ蓋ヲナシテ靜カニ蓄ヘラル可シ、此蓄ヘタル小孢子ガ果シテ幾日ニテ發芽スルカノ實驗ヲ缺クト雖次ノ記事ハ或ハ其期間ヲ暗示スル所アラシカ。

我等ガ昨秋ニ於ケル實驗、第一回ニみづにらヲ採集セシハ九月二十五日ニシテ第二回ハ十月廿三日ナリ、而シテ十一月九日ニ至リテ精蟲ノ盛ンニ出ヅルヲ見タリ、其後度々實驗シテ十二月三日ノ理科會ニ出陳シ其後尙續キテ出ヅルヲ見タリ。

上述ノ如クニシテ、實驗セントスル時ハ「ペートルシャール」ヨリ少量ヲ採リ出シテ鏡檢スレバ見ル事ヲ得ルモ尙此「スライド」ヲ暫ク石炭瓦斯ニ曝スカ或ハ石炭瓦斯ヲ溶カセル水ニテ裝置スレバ直ニ多數ノ精蟲ノ游ギ出スルヲ見ルヲ得可シ、此精蟲ハ大形ナルヲ以テ精蟲ノ形、運動等ヲ見スルニ最適當ノ材料ト思ハル、而シテ孢子ヲ水中ニ永ク蓄ヘ得ル點ニモ非常ナル便宜アリト言フ可シ、然レモ「ゴム」ノ溶液、石炭瓦斯等ニ遇ヒテ直ニ原葉体外ニ出デ去ルヲ以テ是ヲ蓄ヘントスル時ハ斯クノ如キ刺戟性ノ臭氣アル所ヲ避クル必要アリ。

雌性原葉体モ亦大孢子内ニアリテ發芽シ頂上ニ一個ノ雌器ヲ生ズ。

くらまごけハ諸氏ノ既ニ御承知ノ如ク、羊齒類ノ一ニシテ鱗片狀ノ葉ヲ具ヘ莖ハ匍匐シテ諸々

地ニ接スル部ヨリ根ヲ生ジ、時至レバ枝ノ先端ニ穗狀ノ花ヲ生ズ、此穗ハ上部ニハ小孢子囊ヲ生シ最下部ニ大孢子囊ヲ生ズ、一般ノ外形ヨリ見レバくらまごけトみづにらトハ著シキ差異アリト雖、是一ハ水中ニ殘存シ他ハ陸上生活ヲナスニ至リタル爲ニ適應的体制ヲ生シタル結果ト見ル可ク其間ニ親縁アル一證ハ、兩者ノ子囊ヲ附クル葉ニ於テ見ルヲ得可シ、即子囊ノ生ズル場處ノ上部ニ當リテ兩者共ニ小舌ト稱スル小形ノ附屬器ヲ有スル事ナリトス。

本會記事

本會第十八回例會ハ十二月三日午後一時ヨリ本校第二講堂ニ於テ開會セラレ左ノ講演アリ

硫黃島探嶮談

脇水 講師

マルサスノ人口論

青山 秀

白蟻ニツキテ

鰐部 多美

本回ヨリ此開會ノ機ヲ利用シテ機械標本等ノ陳列ヲナシ會員ノ觀覽ニ供セン企テアリ、動物教室ヨリ貝ボタンノ原料、植物教室ヨリ變形菌ノ一種、朝鮮人參、水前寺のり、みづにら及其精蟲等ノ出品アリ、其説明ノ一部ハ寄稿欄ニ收ムル所ノモノナリ。

本會第十九回例會ハ三月四日本校第二講堂ニ於テ開會セラレ左ノ講演アリ、當時乙部教授ハ物理學上ノ講演及實驗ヲセラル、筈ナリシモ御差支ノ爲ニ沙汰止ミトナリシハ校外會員ノ殊ニ遺憾トセラレシ所ナリキ、岩川教授ハ乙部教授ニ代リテ御講演アリ。

器械書法ノ誤差

上原いつ

齒磨ニツキテ

中尾ときの

二三ノ寄生菌類

田中なを

一二ノ蟲癭

阿部とく

「インク」ノ製法

牧田らく

接木雜種

宮崎素

をきなえびす及さざなみ

岩川教授

當日動植物標本若干ノ陳列及説明アリタリ「アカンサス」ハ其一ナリ動物標本ニツキテハ次號ニ記スル所アル可シ、

雜報

本校ニテハ昨年來幹事ノ職ヲ廢シ各科ニ主任ヲ置カレタル結果トシテ岩川教授ハ理科主任ト成

ラレタリ聞ク所ニ依レバ卒業生諸君ノ中ニハ職務ノ進退等ニ就キ從來相談ヲ煩ハセシ教務幹事ヲ失ヘル爲メ迷惑スル向モアル由ナルモ各科主任ハ右幹事ニ代リテ其事務ヲ分擔セラル、趣ナレバ理科卒業ノ方々身上ノ事總ベテハ學校長若クバ岩川教授ニ御相談在ルヤウ本校ニテ希望セラル、旨ナリ。

地方會員中ヨリ會報ニ質議應答ノ欄ヲ設ケラレタキ旨態々書面ヲ寄セラレタル方モアリ本會ニ於テモ夙ニ其必要ヲ感ゼザルニ非ズト言ヘトモ現今會報ノ發刊ハ一年四回ニ止マリ質問者ガ應答ヲ手ニスル迄ニハ一二月ヲ要スルガ故ニ會員ノ希望ヲ充タスニ足ルヤ否ヤハ稍々疑問ニ屬セリ就テハ追々會員モ殖エ發行ノ度數モ増加シテ成ル可ク速ニ實行ノ時期ニ達センコトヲ希望シ居レリ

追々よろしき氣候と相成り候會員諸姉には益々御健康にて御勤務又御勉強の御事と御喜び申上候、學校に於ても新學年の開始と共に學課の改正は實行せられ忙しさと共に元氣を加へて一同いそしみ居られ候來學期迄には多分隣地なる東京師範學校跡に一部分移轉の運びとも相なる事と存じ候、さりとて校舎は廣くなりし様の感じは致さず相變らず狹隘を感じ候事と存じ居候へども兎に角少しは息もつける事と相なるべくとよろこび居候私にしては矢部教授の御精勵の下に新しく